

福岡・しもつきぐま 下月隈C遺跡群

- | | |
|---|------------------------------------|
| 7 | 遺跡及び木簡出土遺構の概要 |
| 6 | 遺跡の年代
弥生時代～中世 |
| 5 | 遺跡の種類
集落跡・水田跡 |
| 4 | 調査担当者
山崎龍雄・荒牧宏行 |
| 3 | 発掘機関
福岡市教育委員会 |
| 2 | 調査期間
第七次調査 二〇〇一年（平13）四月～二〇〇二年三月 |
| 1 | 所在地
福岡市博多区月隈四丁目 |



がり、大宰府から北西約一〇km、席田郡内に位置する。水城東門から発した官道は、当調査地点から御笠川を隔て約一・二km離れた位置を通ると推定されている。

設に伴う一連の発掘調査であり、二〇〇二年度末までに約6haの調査を終了している。調査では洪水砂に覆われ重層した三面の遺構面から、弥生時代から中世までの集落、水田遺構を検出した。

8 木簡の釈文・内容



(赤外線デジタル写真)

るが、表裏から削り込まれ丁寧に切断されていることから、廃棄時ではなく当初からの成形と思われる。全体に湾曲した歪みが生じている。

表面は上部が欠損し不明であるが、三人の名前が書かれていた可能性はある。内容はこの三人に「皇后宮職少属正八位上」の官人のために何かの役割を果たすように命じたものと考えられる。運筆は「為」までは太字であるのに対し、「皇后」以下を意識的に細字で丁寧に書いた感がある。なお、天平二〇年（七四八）の皇后宮職牒（大日本古文書三、一二五頁）には「行」が付された正八位上行少属土師宿祢がみられる。

裏面は上部の文字が欠損し不明であるが、割書がみられ、続いて「脚力」の者に「今日戌時」という切迫した期限をきり、最後に「奉行」と書止めて命令を下している。「脚力」の上は「馬」の可能性があり、また「戌時」の下は一字か二字か判然としない。

「奉行」の具体的な内容はわからないが、袴狭遺跡出土の木簡からうかがわれるような、皇后宮職の財源となった封戸や出挙稲の経営に関わる内容であった可能性もある（本誌第一一〇号。『袴狭遺跡』兵庫県文化財調査報告 第一九七冊）。

貞観九年（八六七）の高子内親王家莊牒案（『平安遺文』一五四号）、貞観一〇年の筑前国牒案（同一五七号）、観世音寺牒案（同一五八号）、内蔵寮博太莊牒（同一六〇号）、貞観一一年の大宰府田文所検田文案

（同一六二号）には、高子内親王（貞観八年。仁明天皇の皇女）家の所領が本遺跡の位置する席田郡内に存在していたことを記す。推測の域を出ないが、これ以前にも席田郡内に皇族と結びついた領地があったことも考えられる。

木簡の釈読にあたっては、京都橘女子大学の狩野久氏と九州大学の坂上康俊氏のご教示を得た。

（荒牧宏行）